

名作の舞台から

映画『おくりびと』 (山形県酒田市)

会誌編集専門委員会

概要

映画『おくりびと』は納棺師という職業を通して、笑いと涙そして感動を与えてくれる2008年の日本映画である。第81回アカデミー賞外国語映画賞や第32回日本アカデミー賞最優秀作品賞などを受賞した。監督は滝田洋二郎、脚本は小山薫堂。久石譲の音楽が哀愁を誘う。出演は本木雅弘、広末涼子、山崎努他。本編は131分。

チェロ奏者として東京のオーケストラに職を得た小林大悟（本木雅弘）だったが、ほどなくして楽団が解散。夢を諦め高額なチェロも売り、妻の美香（広末涼子）とともに、郷里の山形県酒田市へ帰ることにした。

就活は求人広告に「旅のお手伝い」と書かれた小さな会社「NKエージェンツ」。旅行会社と思い応募を決め、社長の佐々木（山崎努）と面談しその場で採用される。ただ、その会社は遺体を棺に納める仕事「旅立ちのお手伝い」をする会社であった。納棺師見習いとして働き出した大悟だったが、初日は遺体に慣れず吐いてしまう。それでも次第に現場にも慣れ、納棺の仕事に興味を持ち始める。

美香にはずっと冠婚葬祭関係の仕事とお茶を濁して来たが、ある日仕事の内容がばれギクシャクしてしまう。「そんな仕事辞めてほしい」と懇願する美香の気持ちを無視したため、実家に帰ってしまう。そして現場でも遺族からなじられたことで、仕事を辞めようと思う。しかし、社長からこの仕事に就いている理由を聞き、納棺師として生きていこうと決意する。

その後、家に戻ってきた美香から妊娠していることを打ち明けられ、再度「仕事は辞めてほしい」と言われるが、決意は変わらなかった。そんななか、共通の知人、鶴乃湯のおばちゃんの葬儀が入り、二人で出向く。納棺師としての大悟の仕事を間近でみた美香は圧倒され、見方が変わった。その後、30年前に出て行った大悟の父の訃報電報が届き、迷った末に会いに行く。そこでの納棺の仕事の最中に、父の手から小石がこぼれ落ちる。それはかつて自分が父に渡した「石文」だった。

酒田市

酒田市は山形県の北西部、庄内地方の北部に位置し、最上川が日本海に注ぐ河口に発達した人口約10万人



酒田市民会館「希望ホール」



NKエージェンツ玄関扉



旧港座



DVD表紙

の都市である。酒田港と庄内空港があり、日本海と鳥海山の自然に恵まれ、良質な庄内米と鳥海山の伏流水で造られる日本酒が特産品で、酒田港で水揚げされる海の幸などを求め、県内外からの観光客も多い。

酒田は古くから出羽国の中心として栄えていた。街は袖の浦（現在の宮野浦）に移り住んだ奥州藤原氏の家臣36人が、1521年頃に最上川の対岸に移り、砂浜を開拓して造ったといわれている。

1672年に河村瑞賢が西回り航路を開拓すると、酒田はますます栄えるようになり、その繁栄ぶりは「西の堺、東の酒田」とも謳われた。廻船問屋の鑑屋や日本一の地主だった本間家などの豪商が活躍し、街は「酒田三十六人衆」という自治組織により運営されていた。1689年には松尾芭蕉が奥の細道で訪れている。

現在の酒田市には豪商の町屋や料亭、洋風建築、史跡などが多く残り、繁栄した当時の様子を今に伝える。

映画の舞台

・酒田市民会館「希望ホール」
東京でのオーケストラ演奏会場として登場。

・NKエージェンツ玄関扉
事務所前の坂道も登場するNKエージェンツビルは、リニューアルされて撮影当時の面影はない。ただ、少し離れた所に撮影時の「玄関扉」だけが展示されている。

・旧港座
『納棺の手引き』の撮影場所として登場。現在は映画の他様々な催しを行っている。

・日吉町の石畳
大悟の郷里の石畳の町並みとして登場。奥に見えるのは山王鳥居。

・中通り商店街
大悟の郷里のアーケード商店街として登場。

・山居倉庫
大悟が車で走っていた背景に登場。庄内のシンボルで1893年に建てられた米保管倉庫。

・酒田市斎場
鶴乃湯のおばちゃんの火葬の際に登場。八木澤壯一の設計で1976年に竣工した。

なお、上山市にあった大悟の実家「スナック和」は「上山コンチェルト館」として公開され、鶴岡市にあった鶴乃湯は庄内映画村のオープンセットに移築されている。（文 塚本敏行）

<参考資料>

- 1) DVD『おくりびと』2008映画『おくりびと』製作委員会
- 2) 「MIHOシネマ」(<https://mihocinema.com/okuribito-6658#toc3>)
- 3) 「酒田市企業立地ガイド」(http://www.city.sakata.lg.jp/kigyo/city_top.html)

<写真提供>

P32下左、P32下中、P32下右写真：塚本敏行
P33上左、P33中左写真：惣慶裕幸
P33上右、P33中右写真：油谷百百子
P33下写真：山上英之



日吉町の石畳



中通り商店街



山居倉庫



酒田市斎場

現地を訪れるなら

映画には登場しないが、NKエージェンツビル前の坂道を上った先、桜の名所日和山公園がお勧め。園内にある通称「日和山六角灯台」は高さ12.83m、周囲18.45mの木造六角洋式灯台で1895年に最上川左岸河口に完成した。その後対岸の大浜に移され、1958年には高砂に近代灯台が完成したことで、この地へ移築保存された。灯台越しに酒田港や最上川河口を一望でき、日本海に沈む夕陽を望める。（酒田市教育委員会の現地説明板より）

